

DIC 川村記念美術館×林道郎

# 静かに狂う眼差し—現代美術覚書<sup>おぼえがき</sup>



ジャスパー・ジョーンズ《ハイスクールの日々》1969年  
© Jasper Johns / VAGA, New York & JASPAR, Tokyo, 2017  
C1343

本展は、当館のコレクションの中心を成す現代美術に焦点を当て、美術史・美術批評の分野で活躍する林道郎の手引きで、初公開作品を含む約90点をご紹介します。現代絵画とは何か、どのような流れや変化があったのか、絵画をさらによく見るために、4回シリーズの講演会やギャラリートークを毎週開催し、コレクションを通して現代美術への理解を深めるための機会といたします。

- 会 期 2017年7月8日(土) - 8月27日(日)
- 開館時間 9:30-17:00 (入館は16:30まで)
- 休 館 日 月曜(7/17は開館)、7/18
- 入 館 料 一般1,000円、一般リピーター2,000円、学生・65歳以上800円、  
学生リピーター1,600円、小中学生・高校生600円  
※リピーターチケットで展覧会会期中、何度でもご入館いただけます
- 会 場 DIC川村記念美術館 千葉県佐倉市坂戸631 050-5541-8600(ハローダイヤル)
- 主 催 DIC株式会社
- 後 援 千葉県 千葉県教育委員会 佐倉市 佐倉市教育委員会

## 概要

DIC 川村記念美術館の収蔵作品を新たな視点でご紹介する「コレクション Viewpoint」。今回は、コレクションの中心をなす現代絵画約 90 点を、美術史・美術批評の分野で活躍する林道郎氏の手引きでお楽しみいただきます。

ポロックやラインハート、ルイスやステラなどの、絵画の本質を追求するモダニズムにより導きだされた作品群は、戦後アメリカ美術におけるひとつの到達点とみなされてきました。そのため、飽和状態に達した絵画は完結したメディアとして急落し、60年代には芸術の様式は立体作品など「絵画」ではないものへと多様化していきました。しかし、「絵画」は決して消滅することなく、現在ではかつてないほどの勢いで私達の前に現れ出ています。このような「死なない絵画」について林道郎氏は思索を繰り返し、独自の言葉を構築してきました。本展では、絵画がもつ「人間の感覚や想像力や思考のモデルとしての可能性」について、4つのキーワードを基軸に探ります。

林道郎氏の眼と思考によって、絵画に託された問題が広く深い射程をもつことを知るきっかけになれば幸いです。

### 1章 密室と絵画：静かに狂う眼差し

ブラッサイが撮影したアトリエのマティスの写真を中心に、近代において画家が密室（アトリエそしてプライベートな居住空間）のなかで育んできた、見る欲望とその対象との関係について模索します。

出品作家：アンリ・マティス、ピエール・ボナール、ピエール・オーギュスト・ルノワール、ブラッサイ、パブロ・ピカソ、マックス・エルンスト、リチャード・ハミルトン、ロイ・リキテンスタイン、ジョゼフ・コーネル ほか

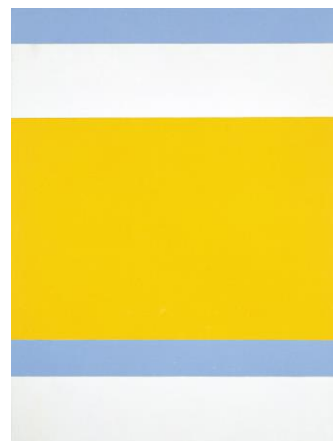


ブラッサイ《マティスとモデル、1939年》1973年

### 2章 反射と透過：表面という問題

表面処理への関心が鋭くなる60年代、反射・反映（光を撥ね返す表面）と透明（光を透過させる表面）という問題が先鋭化し、「環境」の問題に至ります。マクロフリンとベルに焦点を合わせ展示します。

出品作家：ジョン・マクロフリン(初公開)、ラリー・ベル、フランク・ステラ、桑山忠明 ほか



ジョン・マクロフリン《X-1958》1958年 DR

### 3章 鉛とパン：戦後美術における灰色への沈着と日常性への下降

ジョーンズの鉛の作品群を起点に、現代美術において、物言わぬ灰色が大きなウェイトを占めるようになった事情とその意味を探ります。赤瀬川のトマソンやクリストのラッピングの仕事などにも言及します。

出品作家：クレス・オルデンバーグ、ジャスパー・ジョーンズ、赤瀬川原平、クリスト

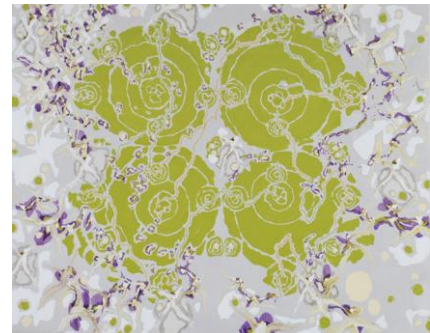


ジャスパー・ジョーンズ《パン》  
1969年 © Jasper Johns / VAGA,  
New York & JASPAR, Tokyo, 2017  
C1343

### 4章 筆触のざわめき：手の(無)人称

戦後美術において筆触というものが、どのように語られ、どのような問題群とともにあり、そして今後どのように展開しうのか。19世紀から連続する視点によって、象徴的な作品を紹介します。

出品作家：ジャクソン・ポロック、サイ・トゥオンブリー、ロバート・ライマン、中西夏之、李禹煥 ほか



中西夏之《R・R・W-4つの始まりⅢ》2002年  
© Natsuyuki Nakanishi 2017

### 林道郎氏からのコメント

「20世紀は美術の転換点だった。ルネサンス以来の規模と深さの。DIC 川村記念美術館の特異なコレクションは、その転換を知るためのたぐいまれな鉱脈だ。そこに4つの坑道を掘ってみる。1) 画家のまなざしが結晶化する密室空間、2) 最小単位への還元と環境への折り返し、3) 日常の事物の鈍重で繊細な存在性、4) 諸感覚の擦過の舞台としての絵画。『蔵出し』の作品を多くまじえた『交差配列』により、この4つの坑道に光を通し、ひとつながりのネットワークを出現させる。この明るい『迷路』には、複数の時空が編みこまれ、幾通りもの隘路や<sup>あいろ</sup> 道が<sup>そまみち</sup> 隠されている。迷うことの快樂へようこそ。」

はやし みちお (美術史・美術批評、上智大学教授)

1959年函館生まれ。東京大学文学部卒、コロンビア大学大学院美術史学科博士号取得。2003年より現職。主な著作に『絵画は二度死ぬ、あるいは死なない』(全7冊、ART TRACE刊)、共著に『シュルレアリスム美術を語るために』(水声社)、「Tokyo 1955-1970: A New Avant-Garde」(ニューヨーク近代美術館) など多数



## 関連イベント

### ■講演会

林道郎（美術史・美術批評、上智大学教授）

8月5日（土） 「密室と絵画：静かに狂う眼差し」

8月12日（土） 「反射と透過：表面という問題」

8月19日（土） 「鉛とパン：戦後美術における灰色への沈着と日常性への下降」

8月26日（土） 「筆触のざわめき：手の(無)人称」

各日 13:30-15:00（13:00 開場）

予約不要 | 定員 80 名 | 入館料のみ

### ■ギャラリートーク

7月8日（土） 林道郎（美術史・美術批評、上智大学教授）

7月15日（土） ガイドスタッフによる対話型トーク「mite!」

7月22日（土） 前田希世子（本展担当学芸員）

7月29日（土） アートテラー・とに～

8月19日（土） ガイドスタッフによる対話型トーク「mite!」

上記ギャラリートークの開催日を除く毎日 ガイドスタッフによる定時ツアー

各日 14:00-15:00

予約不要 | 定員 60 名 | 14:00 エントランスホール集合 | 入館料のみ

## リピーターチケット

講演会やギャラリートークが毎週開催される本展では、会期中に何度でも入館できるお得なリピーターチケットをご用意いたします。

一般：2,000 円／学生・65 歳以上：1,600 円

## 関連書籍

林道郎著『現代絵画覚書：さらによく見るために』（仮称）

水声社／200 ページ／予価 2,500 円（税込）

## 図版掲載をご希望の方へ

- \* 著作権の都合上、ブラッサイ、ジョン・マクロフリン、中西夏之の図版とポスターイメージのみを貸出用にご用意しています。
- \* 作家名・タイトル・制作年・所蔵者の情報は必ずキャプション表記してください。
- \* 掲載情報の事実確認をさせていただくため、発行前にレイアウトをお送りください。
- \* 紙媒体は掲載物送付（掲載ページの PDF 可）、ウェブ媒体は公開用掲載ページの URL 通知をお願いします。
- \* このページを出力しファックスしていただくか、Eメールで下記の情報をお知らせください。

お名前 \_\_\_\_\_ ご所属 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_ Eメール \_\_\_\_\_

媒体名 \_\_\_\_\_

掲載号 \_\_\_\_\_ 発行予定日 \_\_\_\_\_

コーナータイトル \_\_\_\_\_

執筆者名（記名原稿の場合） \_\_\_\_\_

希望図版 \_\_\_\_\_

図版送付〆切日（対応できない場合があります） \_\_\_\_\_

### お問い合わせ・資料リクエスト先

DIC 川村記念美術館

TEL 043-498-2672（取材用）／ハローダイヤル 050-5541-8600（掲載用）

FAX 043-498-2139

広報担当：林 里絵子 [press@kawamura-museum.com](mailto:press@kawamura-museum.com)

学芸担当：前田 希世子